

《「特別の教科 道徳」の完全実施に向けて》

「考え、議論する道徳」スタートブック ～3つのポイントから授業づくりを！～



友達の話を聞いたがっているし、
話したがっているわ。
これが考え、議論する姿なんだわ。

理由の交流



どうして、そう考
えたの？教えて。
ぼくはね…。

判断の視覚化



あれ？考えが、
違う人もいる
みたいだぞ。

判断を促す発問



私も主人公に
賛成だな。
みんなはどう？

気持ちの読み取りが多いな…
子どもの発表も少ないぞ。
もっと活発に交流させたいな。



① いつから完全実施されるの？

小学校はH30
中学校はH31

校種		H26	H27	H28	H29	H30	H31
小学校	指導要領	学習指導要領改訂 中教審答申 中教審審議	移行期間			完全実施	
	教科書		編集	検定	採択		
中学校	指導要領		移行期間			完全実施	
	教科書		編集	検定	採択		

② どのように授業は変わるの？

下表の3つのような「質の高い多様な指導方法」による「考え、議論する道徳」の実施が求められます。

「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）（平成28年7月22日）を基に作成

指導方法	× 登場人物の心情理解のみの指導	登場人物への ※自我関与が 中心の学習	問題解決的 な学習	道徳的行為 に関する体験 的な学習	× 主題やねらいの設定が 不十分な単なる 生活経験の話し合い
の一例					
教師の主な 発問例		① 主人公はどんな思いで行動したのだろう？ ② 主人公の行為に賛成ですか？	① 何が問題なのですか？ ② どうすれば解決できますか？	① 実際に役割演技をしてみよう。 ② 何が難しかったですか？	

※ 登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考える学習

③ 何から始めればいいのか？

これまで、上記の表の「登場人物の心情理解のみの指導」のような授業も多く見られました。

そこで、本パンフレットでは、「登場人物への自我関与が中心の学習」に位置付く実践例を表紙に書いた3つのポイント（①判断を促す発問、②判断の視覚化、③理由の交流）を基に紹介いたします。ぜひ、授業にご活用下さい。



ポイント1:判断を促す発問とは？

「賛成」と「反対」、「できる」と「できない」など立場を明確にさせることで、互いの判断に興味・関心が高まります。

実践学年	小6年	内容項目	B 相互理解、寛容
主題名	広い心	資料名	「銀のしょく台」(文溪堂)
ねらい	相手を許すことの難しさや素晴らしさに気付き、人の過ちや失敗を広い心で受け止めようとする心情を深める。		

主な発問

導入

「人の失敗を許すことはできますか。」

- ・自分にも失敗はあるから許せる。
- ・場合によっては許せないこともあるな。



展開前段

「ミリエル司教のようにジャンの過ちを許すことに賛成ですか、反対ですか。」

賛成:ジャンの苦しい生活を考えれば許すべき。

困っている人は助けたい。

反対:人の親切に対して、物を盗るなんてひどい。

許すとまた同じ過ちを繰り返すのでは。



「ジャンがわなわな震えているのは、ミリエル司教のどんな思いに気付いたからでしょうか。」

- ・ジャンの生活や将来を心配する思い。
- ・やり直すチャンスを与えたいという思い。

「ミリエル司教とマグロワールの言動に差が出るのは、マグロワールに何が足りなかったからでしょうか。」

ジャンの目線、立場で考えること。



展開後段

「相手の立場を考えて人を許す、みんなの姿を見つめましたよ。」

- ・運動会へ向けての応援練習、思い通りに練習してくれない下級生に対しての言動から。

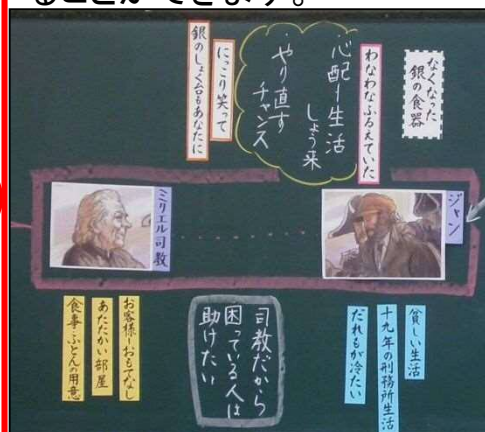
終末

「今日の学習を振り返って考えたことを書きましょう。」

ポイント!

○場面の焦点化

短冊や絵図を使って場面や状況を整理することで、素早く中心場面での話し合いに入ることができます。



○立場の明確化

二者択一など、「自分だったら・・・」と、いくつかの立場から判断させることで、登場人物への自我関与が中心の学習へとつながります。

(賛成 ・ 反対)

【理由】

自分の大切なものをとられて、快くゆるす気持ちにはなれないから。

(賛成 ・ 反対)

【理由】

ジャンがこんなに貧しくても、犯罪は度をこえていると思うから。

ポイント2:判断の視覚化とは？

お互いの立場を板書などを活用して把握させることで、
そう考えた理由の交流に対する興味・関心が高まります。

実践学年	小2年	内容項目	B 友情、信頼
主題名	その場にはいない友達を思う心	資料名	「ともだちだものね」(東京書籍)
ねらい	自分の中には友達を思う心があり、その場にはいない友達のことも考えて、自分にできることをしようと思うことの大切さに気付き、友達と助け合っていこうとする心情を育てる。		

主な発問

導入

「友達に対して、やさしくしたことはあるそうですね。
それでは、その場にはいない友達にはどうでしょう。」

確かに、優しくしたのは目の前にいる
友達のことばかりだな。



展開前段

「ゆうたがやりたがっていた『劇』という意見も出たのに、
なぜ、ゆうたは『踊りがいい』と言ったのですか？」

「踊りがやりたい」って言っていた
みほちゃんが休みだから・・・。



「自分がやりたいことと違うのだから、休んでいる
みほちゃんのことまで考えなくてもいいのでは？」

- ・休んでしまったから、しょうがないよ。
- ・それじゃあ、みほちゃんのがっかりするよ。
- ・休んでいるからこそ、言ってあげないと。



「『いいところあるな』と言われたゆうたの気持ちは？」

うれしいな。

「一番うれしいのは？」

みほちゃん。



展開後段

「みんなも、その場にはいない友達のことを思って行動
したことはありませんか。」

終末

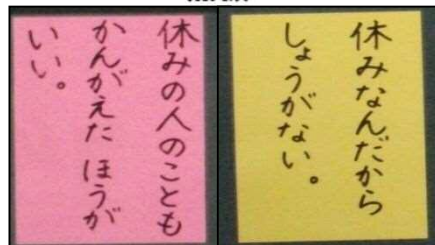
「先生も、その場にはいない友達のことを考えている
みんなの姿を見つけました。」 ※スライドショーにて紹介

ポイント!

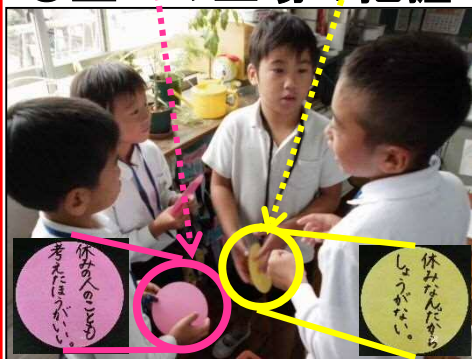
○立場の視覚化

議論させたい立場を板書に
位置づけ、把握させます。

< 黒板 >



○互いの立場の把握



小学校低学年では、自分の立場
を胸からかけさせ、互いの立場
を把握させやすくします。

それ以降の学年では、黒板に
ネームカードで表します。

シーソー図や心情円盤図、
ハート図なども有効です。

つくえをはんのかたちにするとき、休みの人のつくえをはんのかたちにしてあります。そうしないとつくえがポツンとなって、休みでいいけど、かなしいだろうなと思うからです。

ポイント3:理由の交流とは？

判断した理由を尋ねたり、答えさせたりすることが、物事を多面的・多角的に理解することに繋がります。

実践学年	中3年	内容項目	C 遵法精神、公德心
主題名	きまりを守る意義を考える	資料名	「二通の手紙」(私たちの道徳)
ねらい	法やきまりの意義に気付き、それを守ることの大切さについて自分の考え方を広げることができるようにする。		

主な発問

導入

「どんな気持ちから、きまりを守らなかったことがありますか。」

- ・ちよつとくらいいいだろう。
- ・他人には迷惑をかけていない。



展開前段

「2人の子どもを入園させた元さんの行動について、あなたは賛成ですか、反対ですか。」

(賛成)

- ・弟の誕生日に動物を見せてやりたいという姉の気持ちに応えてやりたい。
- ・時間もちよつとしか過ぎていないし、入園させないのはかわいそう。

(反対)

- ・入園終了時間は守るべきだ。保護者同伴という規則も守っていない。
- ・姉の気持ちはわかるが、規則は守らないといけない。

展開後段

「『この年になって、初めて考えさせられることばかりです。』と言った元さんは、何を考えさせられたのだと思いますか。」

- ・子ども達が喜んでうれしかった反面、きまりは守らないといけない。
- ・無責任な判断によって大きな事故につながることもあるので、ルールはやはり守らなければいけない。



終末

「今日の学習を終えて、考えたことや感じたことを書きましょう。」

ポイント!

○交流の形態

ペアや3~5人の小集団、自由といった交流の場と時間を設定することが、一人一人の判断とその理由を表現することにつながります。



○交流の目的

相互が判断した理由を交流することが、道徳的事象を多面的・多角的に見ることにつながります。



自分自身、「きまり」や「ルール」をあまり考えなかったので今回の授業を受けて、なぜきまりがあるのか、きまりを守る意味などを改めて学ぶことができてよかったです。きまりやルールを自分の考えや気持ちだけで判断せず、一度確認することも大切だと感じました。

④内容項目はどう変わるの？

子どもにとっての対象の広がり即して、CとDの視点の順序が入れ替わってるね。



各内容項目のねらいを端的に表すキーワードが示されているね。

視点	キーワード	小学校 第1学年及び2学年		小学校 第3学年及び4学年	
		19項目	現行	20項目	現行
A 主として自分自身に関すること	善悪の判断、自律、自由と責任	よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと	1-(3)	正しいと判断したことは、自信をもって行うこと	1-(3)
	正直、誠実	うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活すること	1-(4)	過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること	1-(4)
	節度、節制	健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする	1-(1)	自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度ある生活をする	1-(1)
	個性の伸長	自分の特徴に気付くこと	★新	自分の特徴に気付き、長所を伸ばすこと	1-(5)
	希望と勇気、努力と強い意思	自分のやるべき勉強や仕事をしっかり行うこと	1-(2)	自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと	1-(2)
	真理の探究				
B 主として人との関わりに関すること	親切、思いやり	身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること	2-(2)	相手のことを思いやり、進んで親切にすること	2-(2)
	感謝	家族など日頃世話になっている人々に感謝すること	2-(4)	家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接すること	2-(4)
	礼儀	気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接すること	2-(1)	礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接すること	2-(1)
	友情、信頼	友達と仲よくし、助け合うこと	2-(3)	友達とお互いに理解し、信頼し、助け合うこと	2-(3)
	相互理解、寛容			自分の考えや意見を相手に伝えるときも、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること	★新
C 主として集団や社会との関わりに関すること	規則の尊重	約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること	4-(1)	約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守る	4-(1)
	公正、公平、社会正義	自分の好き嫌いにとらわれないで接すること	★新	誰に対しても分け隔てせず、公正、公平な態度で接すること	★新
	勤労、公共の精神	働くことのよさを知り、みんなのために働くこと	4-(2)	働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと	4-(2)
	家族愛、家庭生活の充実	父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族に役に立つこと	4-(3)	父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくること	4-(3)
	よりよい学校生活、集団生活の充実	先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくすること	4-(4)	先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級や学校をつくること	4-(4)
	伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと	4-(5)	我が国や郷土の伝統と文化を大切に、国や郷土を愛する心をもつこと	4-(6) 4-(5)
	国際理解、国際親善	他国の人々や文化に親しむこと	★新	他国の人々や文化に親しみ、関心をもつこと	4-(6)
D 主として生命や自然、崇高なものに関わりに関するもの	生命の尊さ	生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること	3-(1)	生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること	3-(1)
	自然愛護	身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接すること	3-(2)	自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすること	3-(2)
	感動、畏敬の念	美しいものに触れ、すがすがしい心をもつこと	3-(3)	美しいものや気高いものに感動する心をもつこと	3-(3)
	よりよく生きる喜び				

小学校から中学校までの内容が体系的なものに改善されているね。各項目の発展性を意識した授業が求められているよ。



現在の社会の課題に合わせたいじめ問題への対応と国際理解、国際親善につながる内容項目が増えているね。

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編(平成27年7月)を基に作成

小学校 第5学年及び6学年		中学校		キーワード
22項目	現行	22項目	現行	
自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること	1-(3)	自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと	1-(3)	善悪の判断、自律、自由と責任
誠実に、明るい心で生活すること	1-(4)			
安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること	1-(1)	望ましい生活習慣を見につけ、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする	1-(1)	節度、節制
自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと	1-(6)	自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること	1-(5)	向上心、個性の伸長
より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと	1-(2)	より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること	1-(2)	希望と勇気、克己と強い意思
真理を大切にし、物事を探究しようとする心をもつこと	1-(5)	真実を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること	1-(4)	真理の探究、創造
誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること	2-(2)	思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること	2-(2)	思いやり、感謝
日々の生活が家族や過去からの多くの人の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること	2-(5)		2-(6)	
時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること	2-(1)	礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること	2-(1)	礼儀
友達とお互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと	2-(3)	友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと	2-(3) 2-(4)	友情、信頼
自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること	2-(4)	自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと	2-(5)	相互理解、寛容
法やまじりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと	4-(1)	法やまじりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること	4-(1) 4-(2)	遵法精神、公德心
誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること	4-(2)	正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること	4-(3)	公正、公平、社会正義
働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役に立つことをすること	4-(4)	社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること	4-(2) 4-(5)	社会参画、公共の精神
		勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること	4-(5)	勤労
父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをすること	4-(5)	父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと	4-(6)	家族愛、家庭生活の充実
先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくることとともに、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること	4-(6) 4-(3)	教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい校風をつくることとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること	4-(7) 4-(4)	よりよい学校生活、集団生活の充実
我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと	4-(7)	郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること	4-(8)	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度
		優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展に努めること	4-(9)	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度
他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際親善に努めること	4-(8)	世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること	4-(10)	国際理解、国際親善
生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること	3-(1)	生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること	3-(1)	生命の尊さ
自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること	3-(2)	自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努めること	3-(2)	自然愛護
美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつこと	3-(3)	(21)美しいものや気高いものに感動する心をもち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めること	3-(2)	感動、畏敬の念
よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる	★新	(22)人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見出すこと	3-(3)	よりよく生きる喜び

「特別の教科 道徳」の完全実施に向けてのQ&A



Q1 どうすれば「考え、議論する道徳」になりますか？

A 自分で考え、友達との意見交流を通して、自分の考えを深めたり、広げたりしていく授業づくりが求められています。そのためには、まず発問を工夫してみましょう。例えば、「このときの青鬼の気持ちを考えよう」を「青鬼の行動は本当の友情だと言えますか・言えませんか？」というように言える・言えないや賛成・反対など自分なりの判断を伴う発問が適しています。また、心情を考察するのではなく、自分の判断を行うことがポイントです。その理由をしっかりと考えさせると、意見交流が活発になります。しかし、特定の展開方法はありませぬ。活用類型にこだわることなく、様々な手法を行うことで、道徳の時間が活発になり、児童生徒が楽しみにする時間になると思います。



Q2 議論する場面や形態はどのようにしたらいいですか？

A 議論する場面は、展開の前段または展開の後段が適しています。展開前段の場合は「車いすで困っている少年を手助けするべきですか・するべきではありませんか」などについて議論した後、次の発問で思いやりとは何だろうと考えていきます。展開後段の場合は「図工(美術)の時間に作業が遅れて困っている子を手伝うことは思いやりですか？」などの発問から、思いやりについて直接考えていきます。議論する際の形態については、特に決まりはなく自由に行ってください。ただし、4人位の小集団で行うと全員が自分の考えを表現し、友達の様々な意見も聞くことができます。他にもペアで行ったり、学級全体で立場によって自由に議論したり等も考えられます。



Q3 「考え、議論する道徳」の注意点はありますか？

A 学習する内容項目を授業者が明確にしておくことが大切です。資料の中には2つ以上の価値が含まれることが多く、そのままでは内容項目が複数になる場合がしばしばあります。例えば、「赤信号の先に人が倒れています。すぐに助けるべきですか・助けるべきではありませんか？」という発問であれば「規則の遵守」と「生命尊重(または思いやり)」での議論となり、ねらいが明確でないと道徳的価値を深めることはできません。ただし、議論すること自体が主な目的であれば、複数の価値がぶつかる発問でも使うことができます。

Q4 学習に対する難しさがある児童生徒にはどのように対応したらいいですか？

A 相手の気持ちを理解することが苦手で、字義通りの解釈をする場合には、他者の心情を理解するために、動作化や劇化するなどの配慮が考えられます。また、集中が持続しない場合には、適度な時間で活動を切り替えることも必要です。表現が難しい場合は表情図や心情円盤図、ハート図など文章以外で表現させるのも効果的です。発表も全体の場より、ペアや小集団など人数を少なくした方が意見を述べやすくなります。



【平成28年度 道徳教育研究班】

田毎 豊(西牟田小主幹教諭)、熊丸 綾(西国分小教諭)
鶴 弘幸(田主丸中主幹教諭)、堤 文司(荒木中教諭)
桑野 洋志・松澤 善明(教育センター指導主事)

久留米市教育センター
福岡県久留米市南1丁目8番1号
TEL:0942(36)9777/FAX:0942(35)9930

